



Safe Crop Project News



No.7 2017年11月14日発行

「ベトナム北部地域における安全作物の信頼性向上プロジェクト（2016年～2021年）」は、北部地域2市11省において、「Basic GAP (Good Agricultural Practices)」を始めとする安全作物栽培の技術規範に沿った生産活動、消費者の安全野菜への信頼醸成、及び、多様なサプライ・チェーンの構築を支援することで、対象地域における安全作物栽培の振興を目指します。

消費者コミュニケーション活動

「安全作物に関する消費者意識啓発」分野の最大規模の活動になる学校教育プログラムを、ハノイ市農業農村開発局（DARD）および教育訓練局と共に実施しました。本プログラムは最大限の相乗効果を狙うため、戦略的に3段階構成で企画しました。

第1段階：次世代教育

ハノイ市街12地区、全194校における小学校4年生50,000人以上を対象に教育プログラムリーフレットを配布しました。一般消費者が「正しい野菜の選び方」と誤認している典型例をテーマに、安全野菜に対する正しい理解を醸成する教育内容です。子供が楽しみつつ自ら考えられるように、クイズ・ゲーム形式という工夫を凝らしています。



配布された教育プログラムリーフレットの英訳版

第2段階：現在の野菜主要購買層の意識・行動変革

上記のうち30校においては、クラスでリーフレットを学習した後、生徒は宿題を与えられました。母親にリーフレット内容を説明し、「学んだ内容」および「今後の安全野菜消費に関する改善」を一緒に記述して提出するものです。母親へのメッセージとして「安全野菜を買っている賢いママたちの声」もリーフレットに掲載されています。母親の最大関心事である子供を媒体とすることで、野菜の主要購買層である母親セグメントの安全野菜消費を促進するものです。10,000人以上の生徒がこの宿題に取り組みましたので、母親セグメント10,000人の安全野菜理解向上にも貢献したことになります。



リーフレットの学習風景

第3段階：消費者の生産者・流通業者に関する理解促進

さらに、上記のうち10校においては「安全野菜と明るい未来」をテーマとしたポスター描きイベントを実施しました。1チーム5人編成で参加生徒数は約1,500名、300作品にのぼります。



ポスター制作に取り組む小学校4年生の生徒

これらの中から、各校でベスト3作品（全150名による30作品）が選出され、選考委員会により各賞が決定されました。選考委員会は、農業農村開発省作物生産局、ハノイ市DARD、教育訓練局、プロジェクトメンバー、生産者を含む構成とし、「テーマを反映している」「目立つ」「クリエイティブ」「面白い」「丁寧」の5項目の重み付け評価基準により各賞を決定しました（金賞、銀賞、銅賞、クリエイティブ賞、エンターテイメント賞、各1作品、将来楽しみで賞15作品、コミュニティ賞10作品）。受賞ポスター



金賞を受賞した Dang Tran Con 小学校4年生のチーム

については、Ha Dong地区An Hung小学校において表彰式を盛大に開催し、生徒、先生、政府関係者、スポンサー、流通業者、生産者の方々を含む約600名が参加。賞品も「Safe Vegetable Festival」のテーマを徹底するため、生産者、小売業者や食品メーカーからスポンサーとしてご協力いただきました。学校教育とポスター描きで安全野菜に関心を持った消費者に対し、安全野菜実物と購入場所を知らせることにより購買行動につなげる企画です。

今後、安全作物に関する認知がさらに拡散されるよう、これらの活動のドキュメンタリー・ショートビデオがリリースされる予定です。また、金賞受賞ポスターはハノイ市内のみならずパイロット省も含む各地に配布します。生産者農家、流通業者、安全作物販売店を含む小売店、学校、コミュニオンセンターなどで様々な立場の方の目にとまることで、バリューチェーン全体の意識改革が促進されることを目的とした認知拡大プランです。

以上の活動において様々な組織の協力を得ることで関係者の意識を高めつつ、消費者認知・関心・行動変革の向上がポジティブな印象で拡大するよう戦略的企画を実施しました。来年も同様のプログラムを高校生対象に実施する予定です。ベトナム消費者のより安全な野菜消費行動の促進に向けて、さらなるコミュニケーション活動が続きます。



各賞を受賞したポスター、右端が金賞ポスター

TOT for Production following Supply Chain

10月24日と25日の2日間に渡り、パイロット市・省及びセミパイロット省の農業農村開発局（DARD）職員を中心に、合計31名を対象に、サプライ・チェーンに沿った生産に関するTOT(Training of Trainers)を実施しました。

今年1月に開催した第1回目のTOTでは、生産に特化したテーマが中心でしたが、今回は、CASRAD(Centre for Agrarian Systems Research and Development)Anh 所長、協同組合農



集出荷の仕組み等について質問する参加者(Tan Minh Duc 農協)

村開発局 Thinh 副局長、NAFIQAD(農林水産品質管理局) Thuan 課長、国家普及センターHuyen 副室長、プロジェクトのカウンターパートである作物生産局 Tuong 副室長に講師として参加いただき、「サプライ・チェーンに沿った安全作物生産の組織化」や「安全作物生産における新農協の役割」等、サプライ・チェーンを視野に入れた安全作物の生産管理と組織運営に関し、多角的なテーマで講義を実施してもらいました。また、研修1日目の最後には、北海道帯広で実施された JICA 課題別研修「アジア地域バリューチェーン構築による地域アグリビジネス振興」に参加したハイズオン省農業農村開発局 Kiem 作物生産室長に、日本での学びについて、写真やビデオによる事例紹介を交えながら参加者と共有してもらいました。

2日目は、対象グループの1つ、キャベツやコールラビの収穫を控えたハイズオン省 Tan Minh Duc 農協を訪問しました。参加者からは、安全野菜の共同販売において鍵となる、農協における集出荷の仕組みや、経営等について、熱心に質問が挙がりました。

2日間に渡る研修で、各 DARD からの参加者はサプライ・チェーンに沿った生産の理論的な枠組みについて学ぶことができましたが、特に各省の生産者グループが課題として直面しているマーケティングに関し、具体的な事例に沿って更に掘り下げて学びたいというニーズも挙げられたことより、プロジェクトでは次回以降のTOTやワークショップの計画に反映させていく予定です。

合同モニタリング会議

11月9日に、ハノイ市において、CPMU(Central Project Management Unit)、及び、1市5省のPPMU(Provincial Project Management Unit)からの代表者が参加した、合同モニタリング会議を開催しました。

会議では、七久保総括より4月より本格的に始動した生産とマーケティングのパイロット活動及び、コミュニケーション活動の進捗について報告があり、その後、各パイロット省及びセミパイロット省の参加者より、活動進捗と課題について報告が為されました。生産のパイロット省であるハイズオン省、フンエン省、ハナム省からは、プロジェクトチームの専門的なアプローチ、特に有機堆肥作り、発泡スチロールトレイによる育苗、ビニールハウス等、技術支援に対する高い評価とモデル拡大の提案が為され、プロジェクト側からは、技術支援の拡大には、各省による予算準備が必要であること等の意見交換が為されました。マーケットのパイロット市であるハノイ市からは、これまで女性連合や農民組織と実施してきた意識啓発活動について、教育局と連携し、学校で大規模に展開するのは初めての試みであり、実施過程においても多くの学びを得ることができたとの報告がありました。会議の

最後に、CPMU 代表の Dinh 作物生産局副局長(農業農村開発省)より、計画に沿って成果が発現していることへの評価と共に、今後の更なる成果達成に向け、PPMU によるモ



プロジェクトの進捗説明を行う七久保総括

ニタリング管理を確実に実施していくこと、また、学校と連携した意識啓発活動については、各 PPMU が主導してモデルを展開させていくことが可能であるとの提言が為され、3時間半に渡る会議は終了しました。プロジェクトでは、今後もプロジェクトの効果的な実施に向け、対象市や省の関係者が互いに成果や課題の共有と、意見交換ができる場を設けていく予定です。

対象グループの紹介

プロジェクト対象グループ紹介の第2回目は、Hai Duong 省の Thanh Ha safe fruit and vegetable company (Thanh Ha 社) です。2006年に設立され、メンバーは59名、栽培面積は30haで、小松菜、空芯菜、キャベツ、コールラビなどの野菜を中心に年間1,300トンほど出荷しています。この会社にはユニークな特徴が2点あります。

特徴1「安全野菜生産の草分け的存在」:

Thanh Ha 社の Toi 社長は、ハイズオン省で最初に安全野菜の生産を始めた、まさに草分け的存在です。1990年代まで続いたロシア向けキュウリの生産が落ち込み、どういった農業をすべきか悩んでいたところ、巷では農産物の残留農薬や食品衛生問題がクローズアップされはじめ、「これからは安全な野菜をつくる」と目標を設定しました。しかし2000年頃は VietGAP も制定されておらず、周囲に安全野菜を指導する人もいないため、独学で栽培をはじめました。そうしたところ、ベトナムで安全野菜の調達にいち早く乗り出した外資系小売の Metro 社が Thanh Ha 社の取り組みを知り、Metro 社による生産指導のもと、安全野菜の取引が実現しました。その後、VietGAP 認証を取得し、現在まで順調に規模拡大を続けています。



Thanh Ha 社 Toi 社長、この笑顔と人柄でお客さんとすぐ仲良しになります。

特徴2「顧客第一で長期的な関係を構築」:

最初の取引先である Metro 社から安全野菜の生産指導を受けた

経緯もあり、販路は Metro 社や BigC 社など大手スーパーが中心で、最近では VinMart+ というコンビニチェーン向けの野菜の出荷を始めています。Toi 社長は常に顧客第一で物事を考えています。多くの農家は、「安全野菜の生産にはコストもかかるので、その分高く買ってほしい」と考え、通常の野菜より2、3割高値での買取りを希望し、それができないと取引をあきらめ、長期的な関係が築けていません。しかし Toi 社長は、「安全野菜と通常野菜の価格差はせいぜい6~7%」と言い、「たとえ市場価格との差がなくなっても契約した取引を優先する」と言い切ります。契約当初はお互いをよく知らず問題が起きるが、契約をしっかりと守ることで買い手との信頼が生まれる、という強い成功体験に裏打ちされています。プロジェクトでは、こうした成功体験を他のグループに広められるよう、農家同士の交流機会を設けています。

今後の課題:

Thanh Ha 社では、安全野菜生産の規模拡大を図るため、周辺農家との契約栽培を広げたいと考えています。しかし、新しい農家が最初から VietGAP に沿って栽培することは難しいため、まずは Basic GAP から指導する必要があります。また、買い手のさらなる安全要求に応えるためには、よりよい栽培方法の指導や集出荷施設の改善、規模拡大に伴う販売先の多様化も課題です。プロジェクトでは、Thanh Ha 社のこうした課題に寄り添って技術指導を行い、産地形成の核として育てていきたいと思っています。



ホウレンソウを収穫する社長の奥様、畑に倉庫に家庭にいつも大忙しです。

JICA プロジェクトチームの紹介

JICA プロジェクトチームメンバーを紹介させていただく本コーナー、第7回目は西山わか奈専門家の自己紹介です。

業務調整/研修計画/民間連携を担当しており、ニュースレターの編集発行も行っております。本プロジェクトが始まる前は、ネパールの山岳地帯で環境調和型農業を通じた住民の生計向上プロジェクト(NGO)に携わっておりました。ベトナムは、過去、民間企業や NGO 職員としてフアンティエット、ホーチミン、コントゥムに駐在した経験があり、通算10年目となります。今回ハノイには2歳の息子を連れて赴任しており、正に野菜の安全性に敏感な一消費者でもあります。

以前出席した食品安全に関するセミナーにおいて、ベトナムの研究者から、「残留農薬蓄積による健康被害については年月を掛けて評価していく必要がある。」との指摘が挙がりました。食を通して家族の健康を守る役割を担うことが多い女性たちは、将来に渡って存在するかもしれない健康被害に対する漠然とした不

安を抱えています。一方、安全食品がベトナム市場に占める割合は必ずしも高くなく、安全野菜の購入先も限られているのが現状です。市場で手に入る野菜が全て安全となるまでには時間が掛かるかもしれませんが、ベトナム政府の取組を多くのドナーが継続的に支援しており、少しずつ改善の兆しもあります。本ニュースレターでは、プロジェクト活動の進捗に加え、安全野菜に関連する周辺トピックもお伝えしていきます。



週末に野菜の買い出しを行う食料品店で

皆様のご意見・ご感想をお待ちしております

JICA プロジェクト事務所

住所: Room 201, Department of Crop Production, Ministry of Agriculture and Rural Development,
2 Ngoc Ha Str., Ba Dinh Dist., Hanoi, Vietnam
Tel/Fax: +84 24 3244 4373